
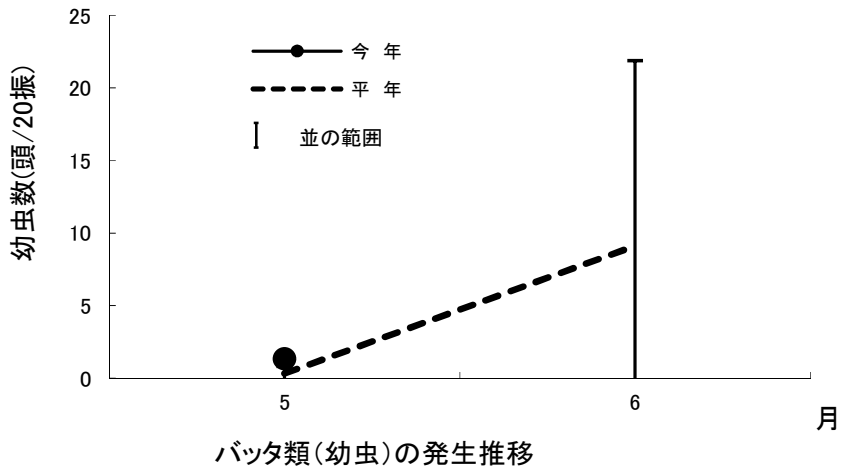


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① バッタ類		
5月の発生量（現況）	やや多		
6月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	幼虫数の平年の発生推移から、5月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



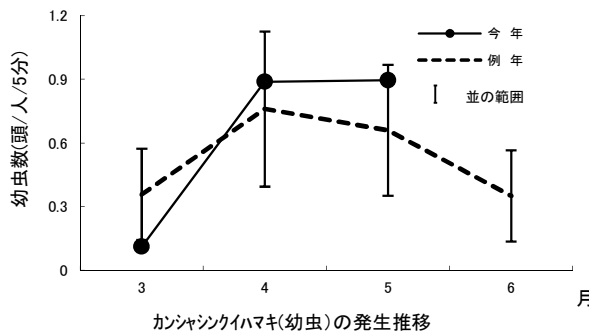
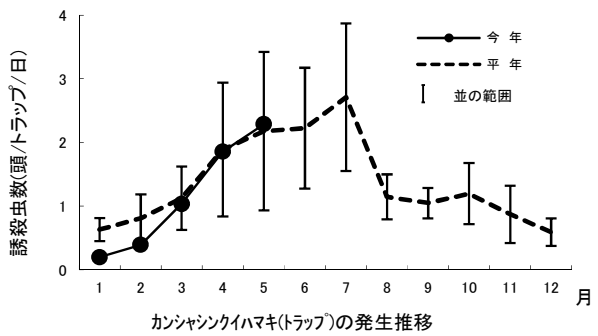
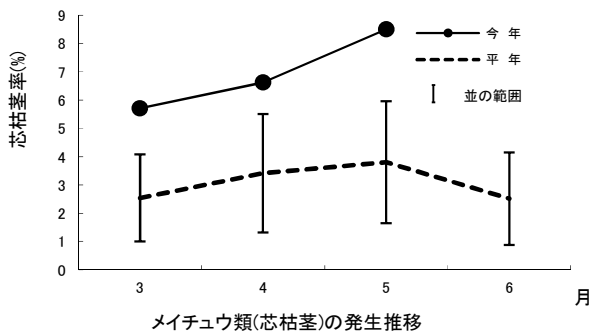
- ・ 防除員の報告によると、南大東島及び北大東島では今月から幼虫が孵化し始めている。

防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、4～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
5月の発生量(現況)	やや多		
6月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



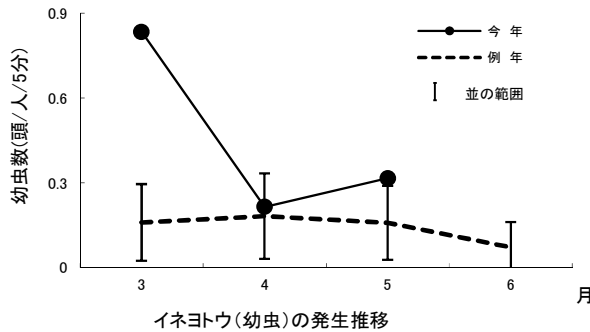
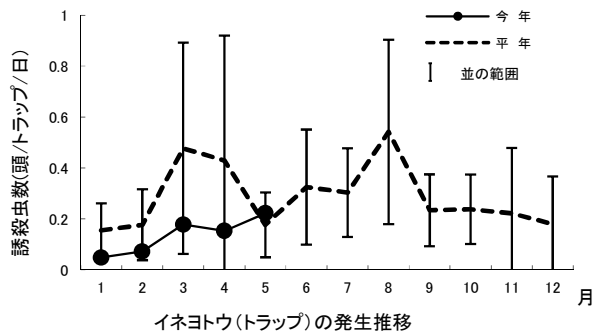
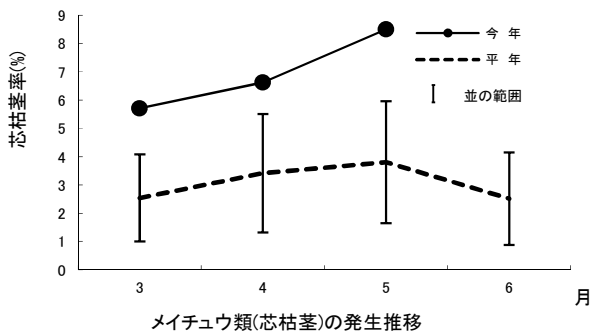
- ・ 芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫のうち75%が本種だった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
5月の発生量(現況)	やや多		
6月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、5月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・ 芯枯茎切開調査の結果、確認された幼虫のうち25%が本種だった。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。